

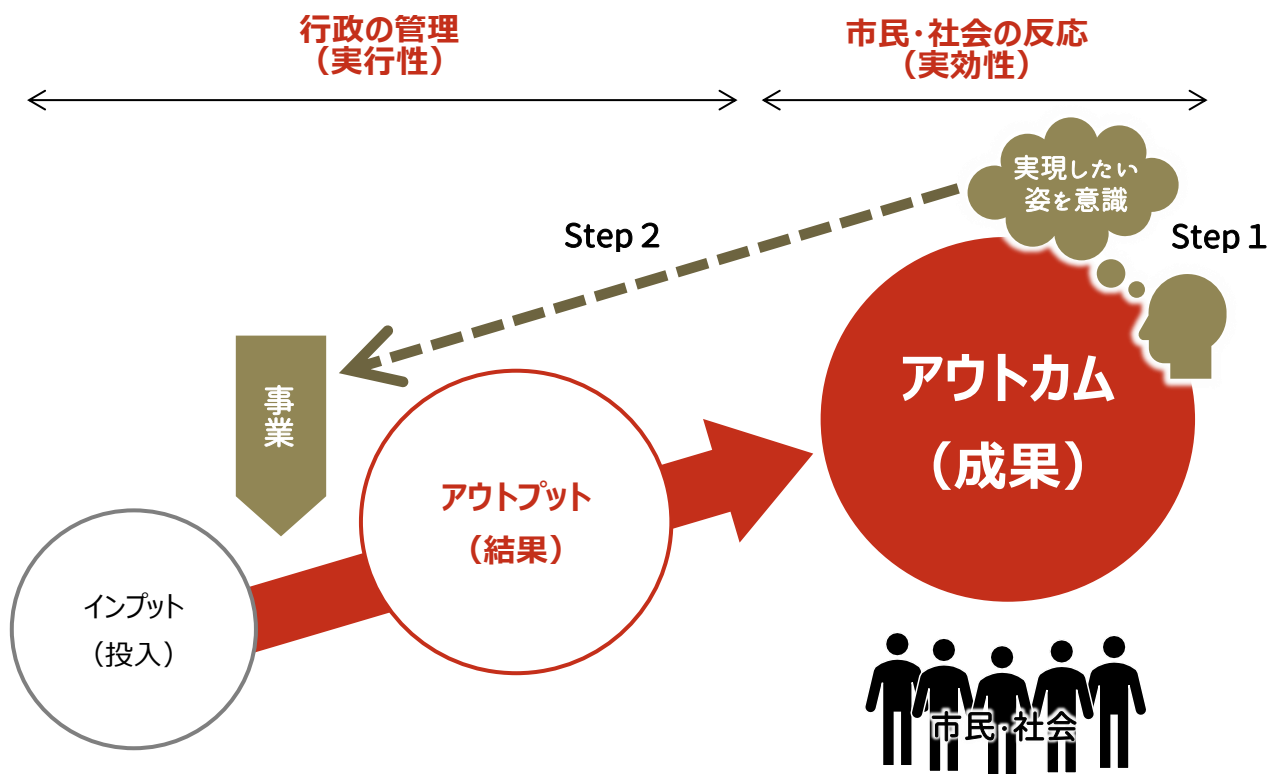
第3章 計画の実効性（案）

1. プロセスマネジメントの実施

事業実施の結果ではなく、事業実施による市民や社会の反応までの**過程（プロセス）**をマネジメントし、実効性を確保します。

本計画は、不確実性が高まる社会情勢においても、時勢に応じた機動的かつ効果的な政策を実行できる反面、計画を策定するだけでは各分野の政策内容や効果が見えにくくなります。

そのため、各分野の政策が、本計画の基軸である経営視点に基づき、「**的確かつ実効性を伴う手段として実行されているかを確認（マネジメントレビュー）すること**」及び「**目標として掲げる実現したい成果（市民や社会の反応）から事業までを分解し、その過程を明確（可視化）にすること**」により、対外的な説明責任を確保することが必要と考えます。また、政策過程の可視化は、他分野や関係者間で政策の目的や課題の共通認識が図られ、分野横断の取組や多様な主体との連携の促進も期待できます。



実効性を確保するため、以下のことを実行します。

Step 1 実現したい姿（成果）を意識

事業の結果（アウトプット）ではなく、事業の結果による成果（アウトカム）に主眼を置きます。

Step 2 マネジメントレビュー（政策決定までの過程と成果を確認）

各分野の政策決定の過程において、目標として掲げる実現したい成果から逆算した、必要な事業やインプット（経営資源）を確認します。

Step 3 政策体系（ロジックツリー）の公表

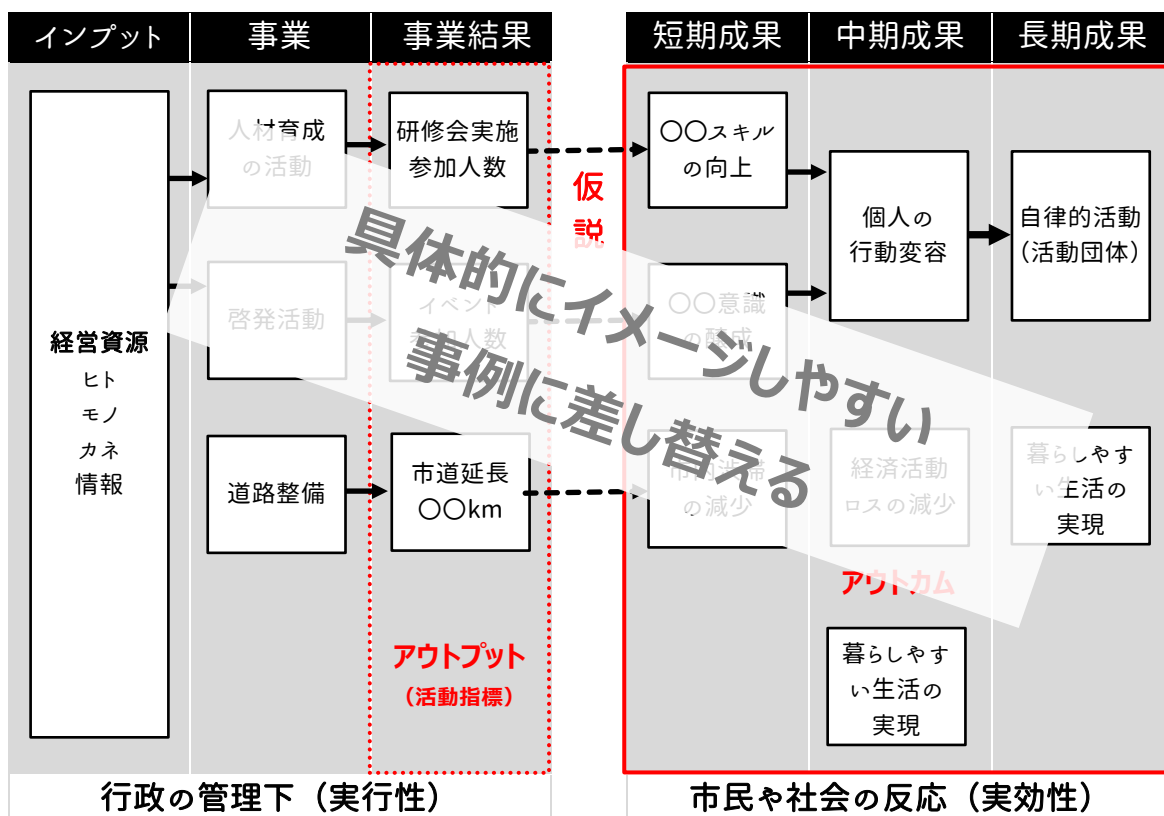
上記の過程（インプット→事業→事業結果→成果）を体系的に図示化した政策体系（ロジックツリー）を年度ごとに公表します。

Step 4 組織全体のマネジメント力の向上

ロジックモデルに基づく思考プロセスを全庁的に標準化していくため、職員研修やフォローアップを行います。

<ロジックモデルの例>

Step 3



2. マネジメントレビューの導入（成果と過程の点検）

政策効果と政策体系を点検するため、令和3年度から令和7年度の5年間、以下のとおりマネジメントレビューを実施します。

効果的な政策を実行するには、その時点の社会情勢等の外部要因を踏まえた、的確な現状認識が必要不可欠です。特に、アフターコロナによって不確実性が高まる社会では、市民の意識や行動の変容も予想され、従来型の“PDCA サイクル”による政策マネジメントだけでは、機動的な政策判断や行政運営は困難な状況にあります。

そこで新たに、**各分野の政策効果と政策体系を、企画部局が各事業推進部局と並走型で点検・確認する**“マネジメントレビュー”を実施します。

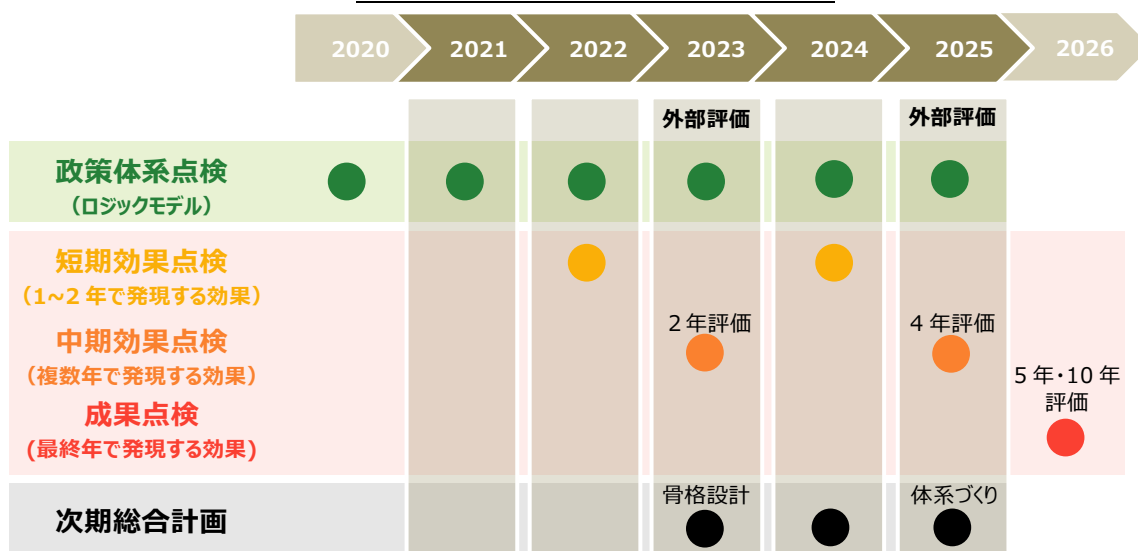
目的：各部局の方針でもある分野別方針の達成を目指すもの。

役割：各分野で迅速な状況判断や軌道修正を可能とする、柔軟で実用的なマネジメントツールとして実装すること。そのため、実施年次により、その役割や点検対象は変える。

対象：分野別方針の対応方針に基づき、各部局が選定する翌年度の優先的取組・事業とする。

点検：自己評価に加え、第3者による外部評価を実施する。

各年度における点検内容イメージ図



3. 計画の推進体制

「経営視点」と「分野別方針」を一体的に取り組み、第五次総合計画が掲げる**将来都市像の実現**を目指します。

本計画では、第1章に定めた「**経営視点**」とそれに基づく「経営資源の活用方針」を思考の基軸として、第2章に示す「**分野別方針**」を推進し、一体的に取り組んでいきます。

また、計画を推進するために、本章にある「**プロセスマネジメント**」を実施し、新たに“経営戦略会議”を組織し、各年度の「行財政運営方針」と「部局運営方針」の連動を図り、第五次総合計画が掲げる将来都市像の実現を目指します。

計画の推進体制イメージ図

